

## 成田歴史玉手箱

●65回●

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。



歴史を感じさせる勅使門



絹本着色十六羅漢像(県指定有形文化財)

### 大慈恩寺

## 足利氏の保護を受け繁栄した古刹



真源画像(大慈恩寺所蔵)



寺の由緒が書かれた梵鐘

周囲にアオハダ・ヤマボウシなどの珍しい樹木や杉・モミの大木が生い茂り、歴史の森公園として整備された中に建つ大慈恩寺。

お寺の縁起によれば、天平宝字五年(761)、奈良の唐招提寺を開いた鑑真によって創建されたと伝えられています。近年、境内にある延慶三年(1310)の梵鐘に刻まれた銘文から、この地を治めていた豪族大須賀胤氏に招かれた僧侶真源によって再興されたことが明らかになりました。

大慈恩寺は当初、慈恩寺と称していましたが、明徳二年(1391)に後小松天皇から「大」の字を冠することを許され、以後大慈恩寺と呼ぶようになりました。二つある山門のうち、左側の勅使門と呼ばれる門には、十六花卉の菊紋が彫られ、天皇家との強い結びつきを物語っています。香取神宮に参拝する天皇の使者が立ち寄るときだけ開かれ、今ではこの門は閉じられています。

室町時代初頭、足利尊氏の弟・直義が、この寺を幕府の祈願所とし、後醍醐天皇や南北朝の内乱の犠牲者の冥福を祈るための利生塔を建立。利生塔は全国66カ国に一塔ずつ建立され、下総国では大慈恩寺が選ばれたので

す。こうして足利氏の手厚い保護を受け、北総地域有数の寺院として全盛を誇り、また、江戸時代には御朱印寺(徳川家より代々土地を寄進)として格式を与えられ、地方文化の中心として栄えた名刹でした。

当時の繁栄を物語るかのように、大慈恩寺には多くの貴重な資料が残り、73点が県の指定文化財に指定されています。絹本着色十六羅漢像など絵画19点、下総国利生塔に関する足利幕府文書、足利直義の仏舎利(お釈迦様の遺骨)寄進状など中世文書50通など、一つのお寺に足利氏の文書がこれだけ残されているのは大変珍しいことです。本堂に向かう参道左手の木立の中に、14個の利生塔礎石群跡(塔は明治35年倒壊)が、往時をしのばせてくれます。

#### 大慈恩寺

**場所** 吉岡183-1 駐車場有り  
**アクセス** 京成成田駅前 千葉交通バス 佐原粉名口行で約30分「大慈恩寺前」バス停下車徒歩5分、乗用車でJR成田駅から約20分  
**宝物の見学** 必ず事前に問い合わせを。☎73-5634

#### 大慈恩寺



#### 編集後記

スポーツ・芸術・実りの秋など、秋はさまざまな行事が行われる季節。ことしは合併を記念して例年にも増して多くの行事が予定され、本号で紹介した「健康・福祉まつり」や「公民館まつり」のような、家族そろって楽しめるイベントが目白押しです。今月の22日(日)には「NHKのど自慢」の公開生放送も行われます。市では昭和59年10月、市制施行30周年を記念したときにも行われましたが、今回は何と1,093組の出場申し込みと6,286通の観覧申し込みがあり、改めて人気のすごさを実感しました。成田の魅力も全国のお茶の間に伝えるこの番組、抽選に外れてしまった皆さんもぜひテレビでご覧ください。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。